令和８年度　東京都立大泉高等学校・附属中学校経営計画

１　目指す学校

府立第二十中学校からの良き伝統を引き継ぎながら、多くの都民から期待されるなか平成２２年に附属中学校を開校し、併設型中高一貫校として１７年目を迎えた。６年間を通した一貫した教養教育の後期課程の学校として、自ら課題を見つけて意欲的に学ぶ力を育成するとともに、国際社会にリーダーとして貢献できる資質の高い人材を育成するための学校である。

【スクールミッション】

「自主・自律・創造」を教育目標に、６年間の系統性とゆとりある中高一貫教育の中で、物事の真理を深く考え、筋道を立てて明らかにする探究活動等を通して、夢の発見と実現に向けたきめ細かな教育の実践により、国際社会で活躍する多様な人間力を育成します。

【スクール・ポリシー】

（１）グラデュエーション・ポリシー

高い倫理観とあくなき探究心を兼ね備えた国際社会のリーダーを育成するために「自ら学び真理を究める力」「自ら律し、他を尊重する力」「自ら拓き、社会に貢献する力」を育成する。

（２）カリキュラム・ポリシー

基礎・基本の徹底をし、個に応じた指導を充実させ、生徒の学力の向上を図り、難関国立大学を含む国公立大学に現役で合格できる学力を身に付けさせる。そのために、探究も含めた全ての教科で、附属中学校・高等学校の６年間を見通した系統的な指導及び課題解決型の授業を推進する。

（３）アドミッション・ポリシー

各教科の学習に真剣に取り組み、入学後も学習及び特別活動においての向上が期待できる生徒、総合的な探究の時間において、物事を多様な角度から探究しようとする意欲を有する生徒の入学を望む。

２　中期的目標と方策

（１）組織的で継続的な探究活動

ア　知的探究部を中心とした６年間を見通した系統的な指導計画に基づき、一層推進する。

イ　ＩＣＴ機器を活用するとともに、データに基づく探究活動を実践する。

ウ　探究活動を英語で成果発表する機会を設定する。

エ　ＯＩＺＵＭＩ　ＡＷＡＲＤの充実を図る。

（２）組織的な進路指導

ア　進路キャリア部を中心とした附属中学校・高等学校の６年間を見通した進路指導により、生徒の進路実現・自己実現に向け各分掌・学年が組織的に機能する体制を構築する。

イ　進路キャリア部が中心となり、学年と連携し、定期考査、学力推移調査、外部模試などの結果を分析し、その分析に基づく指導を行う。

ウ　組織的な講習・補習や保護者との面談などを実施する。

（３）指導計画に基づいた学習指導

ア　基礎・基本の徹底を図るとともに、個に応じた指導を充実させ、生徒の学力の向上を図る。

イ　教科会を充実させることで、各教科の更なる質の向上を目指す。

ウ　科学的な手法で価値ある情報や知識を抽出し、課題解決や意思決定をする能力を育成する。

エ　新しい指導法を導入した授業法を実践する。

（４）世界で活躍できるグローバル人材

ア　英語でのコミュニケーション能力、論理的思考力、多文化共生の精神などを育成する。

イ　海外の学校との交流などを通して、国際理解を深める。

ウ　附属中学校

（ア）中学Ⅰ年生による国内語学研修、中学Ⅱ年生による姉妹校生徒訪問対応・交流、ＴＧＧ、中学Ⅲ年生によるオンライン英会話、希望者による姉妹校訪問などを通して改善・充実を図る。

（イ）ニュージーランド姉妹校訪問及び姉妹校生徒の受入れによる姉妹校交流を推進する。

（５）一貫した生活指導

ア　６年間の一貫した生活指導を行う。

イ　基本的な生活習慣の確立を図るとともに、集団生活における協調性や自律心、規範意識を育成する。

（６）主体性を育む特別活動等

ア　様々な学校行事や部活動などを通じ、生徒の自主・自律・創造の精神や後輩を育成する意識を育て交友、将来的に心身ともに逞しい社会的リーダーとなる素養を身に付けさせる。

（７）安全で安心な学校

ア　生徒の心身の健康を維持・増進するために、家庭や関係機関と連携した心の教を推進する。

イ　日常生活における交通場面での事故や危険から身を守るための交通安全指導や、防災教育を推進する。

ウ　教職員一人一人のライフ・ワーク・バランスの推進する。

エ　完全中高一貫化に向けて、校内組織、環境整備、人員配置の検討を継続する。

（８）質の高い教育及び環境

ア　有形無形の財産や活動の継承を行う。

イ　学習環境の整備を行う。

ウ　コンプライアンスを重視した業務の推進を行う。

エ　経営企画室と一体となった学校経営を推進する。

３　今年度の取組目標と方策

（１）教育活動の取組目標と方策

ア　知的探究活動の推進

（ア）全ての教職員の共通理解と協力体制教科の基、に応じた指導を実践し、中学校から高等学校へと、連続性のある絶え間のない指導を実施する。

（イ）探究活動計画（大泉ソーシャルイノベーションプログラム）推進する。

（ウ）全ての教科・特別活動で探究活動を指導計画に入れる。

（エ）ラーニングコモンズの活用を図る。

（オ）全校生徒が個人端末やネットワーク（Ｔｅａｍｓ）や学習支援システムを活用する。

（カ）探究活動の中にデータサイエンスや統計処理の手法を取り入れる。

（キ）発表会での英語部門の賞を設定し、評価する。

（ク）附属中学校

・　課題発掘セミナーを通して知的好奇心を喚起さる。

イ　進路指導の充実

（ア）「進路の手引き」を活用したキャリア教育を実践する。

（イ）発達段階に応じた指導を実践し、中学校から高等学校へと、連続性のある指導を実施する。

（ウ）生徒の自己の能力や適性を把握させるとともに、探究活動を通じて大学や研究所と連携を図

りながら主体的に進路を選択する能力を育成し、生徒の希望する進路の実現を図る。
（エ）大学受験結果の分析とそれに基づく指導体制の充実を図る。
（オ）進路検討会、模擬試験のデータの分析、進路指導総括会議に基づき、の教員の指導を充実させる。
（カ）全学年対象の進路情報交換会を実施し、共通理解を図る。
（キ）長期休業中の講習を組織的に実施する。
（ク）保護者を交えた三者面談を実施する。
（ケ）附属中学校
・　総合的な学習の時間における探究活動とキャリア教育により、自己についての理解を深めるとともに「１０年後の自分」をイメージし、その実現を図る。
（コ）高等学校
・　総合型選抜や海外の大学進学に関する情報提供を進める。
・　高校１・２年生で引き続き、ＧＰＳアカデミックを実施する。
・　キャリアパスポートを利用した電子調査書対応を計画的に進める。
ウ　学習指導の充実
（ア）全教科において、教師が「問い」を発することを意識し、探究活動を推進する。
（イ）全教科で体験的な学習や問題解決的な学習、アクティブ・ラーニングを取り入れ生徒の主体的な学習を促す。
（ウ）表現力・記述力を向上させるために言語能力の育成に組織的に取り組む。
（エ）少人数指導や習熟度別授業を行うことで、個に応じた指導の充実を図り、より一層の学力の向上を図る。
（オ）教科会で６年間の指導計画・内容の周知・徹底を図り組織的な教科指導を行う。
（カ）定期考査等の分析により基礎・基本の定着を図る。
（キ）難関国立大学を含む国公立大学に現役で合格できる学力を身に付けさせ、進学実績の向上を図るなど、「チーム大泉」としての指導力の向上を図る。
（ク）大学入学共通テストに向けて、記述力や論理的思考力の向上を図るとともに、知的探究活動、教科の指導内容の検討を推進する。
（ケ）理数研究校としてデータサイエンスや統計処理の手法を身に付けさせる。
（コ）学校評価アンケートの分析結果や管理職による授業観察での助言等を参考として授業力向上のための課題解決を図る。
（サ）教員相互の授業見学や指導教諭の授業への参観を行う。
（シ）理数研究校として、教科と連携して生徒の学力の向上を図る。
（ス）附属中学校
・　朝読書や読書月間の推進を通して、豊かな情操を培うとともに落ち着いた学習習慣の確立を図る。
・　ティーチャー・イン・レディネス（ＴＩＲ）など放課後の学習を充実させることで、生徒の個別の学習課題の解決を図るとともに、家庭における学習習慣の定着を図る。
・　総合的な学習の時間において自ら課題を設定し、調査・研究・発表及び体験的な学習活動を通して言語活動を充実させ、自ら学ぶ意欲を高めるとともに、論理的な思考力や判断力、プレゼンテーション能力の育成を図る。
（セ）高等学校
・　応用力を育成するために発展的な内容の学習へ取り組む。
・　探究活動として高校１・２・３年生で「探究と創造（ＱＣ）」の授業を実施する。
エ　国際理解教育・国際交流の推進

（ア）Global Education Network 20として、国際理解教育と国際交流を推進する。
（イ）オンライン英会話を活用し、４技能の中でも特に「聞く・話す」の能力の向上を図り、英語でのコミュニケーションを可能にする。
（ウ）国内語学研修、海外語学研修、海外修学旅行を通して異文化や多様な価値観を理解・尊重する。
（エ）海外学校間交流推進校として、留学生や学校訪問を受け入れる。
（オ）国際交流コンシェルジュと連携し、国際交流を図る。
（カ）附属中学校
・　ＪＥＴ・ＡＬＴとの交流やⅢ学年における「国際理解」、希望者による海外語学研修、Ⅱ学年における姉妹校生徒の短期留学受け入れ等の取組を通して、国際社会への興味・関心を高める。
・　Ⅲ学年における希望者によるニュージーランド姉妹校訪問の推進を図る。
（キ）高等学校
・　海外修学旅行においては十分な調査と安全対策の確立、生徒・保護者への丁寧な説明、業者との連携を綿密にとることで円滑に実施する。
・　東京都教育委員会が主催する海外派遣研修に積極的に参加する。
オ　生活指導の充実
（ア）生活指導部主導で、発達段階に応じた生活指導を行う。
（イ）生徒相互や生徒と教員間の「挨拶」を励行するとともに、「時間を守る」態度を身に付けさる。
（ウ）休み時間中に授業準備を済ませ、授業に備える。
（エ）交通ルールの遵守の指導を行う。
（オ）附属中学校
・　月１回の朝礼や道徳の授業を通して、規範意識や生活規律を向上させる。
（カ）高等学校
・　自転車通学マナーを向上させるとともに、自転車通学におけるヘルメット着用を推進する。
カ　特別活動・部活動の充実
（ア）学校行事や委員会活動、部活動などの体験活動を通して、生徒の自信を高めさせ、協力することの大切さや日々の努力の積み重ねの大切さ等に気付かせ、困難にめげない力を高めことや、豊かな人間性とリーダーとして活躍できる資質を育成する。
（イ）宿泊を伴う行事を通して、望ましい人間関係を育てるとともに、リーダーシップやコミュニケーション能力の育成を図る。
（ウ）総合的な子供の基礎体力向上施策に基づく体力向上を図る。
（エ）附属中学校
・　生徒会活動を通して、本校の一員としての自覚と責任感を深めさせる。
キ　健康づくり
（ア）校内美化を推進し、コンディションレポート等を活用することで健康的で安全な学習環境づくりに努める。
（イ）養護教諭やスクールカウンセラーとの連携を図り、全校的な教育相談体制の充実を図り、心の病の早期発見を図る。
（ウ）担任、養護教諭、スクールカウンセラーの連携を強化し、いじめの早期発見を図るとともに、事案発生時は学校いじめ対策委員会を中心にいじめ防止と対策について検討する。
（エ）高等学校
・　スクールカウンセラーを活用し、高校１年生全員への面談を行い、精神的な課題のある生

徒の早期発見に努めるとともにカウンセリング機能を充実させる。

ク　食育の推進

（ア）保健体育や技術・家庭科等の授業や給食指導を通して食育の推進を図る。

ケ　特別な支援が必要な生徒への適切な支援体制の構築

（ア）障害者差別解消法に基づく合理的配慮を適切に実施する。

（イ）必要に応じて「通級による指導」制度を活用する。

コ　生命尊重を基盤とした教育の推進

（ア）東京都教育委員会作成資料「ＳＯＳの出し方に関する教育を推進していくための指導資料」を参考に生徒理解に努め、未然防止に努める。

サ　防災意識の向上

（ア）防災教育推進委員会が中心となり、関係機関と連携を図り、組織的・計画的な防災教育を実施する。

（イ）附属中学校

・　防災ノートや安全教育プログラム等を活用して、危険を予測し、回避する能力や他者や地域の安全に貢献できる資質・能力を育成する。

シ　働き方改革を推進

（ア）「学校における働き方改革推進プラン」に基づき、学校の業務改善を実施する。

（イ）５０分以内の会議等を実践する。

（ウ）計画的な仕事の進め方により、業務の効率化を徹底する。

（エ）週１回帰りのＨＲ・清掃を実施しない日を継続ことにより会議等の時間設定を図る。

（オ）部活動の統廃合・顧問配置について検討を進める。

（カ）毎月、長時間労働者への超過時間の通知と産業医面接を実施する。

ス　学校２０２０レガシーの推進

（ア）「日本の食文化」に対する理解を深める取組を推進する。

（イ）体育授業、部活動、体育的行事を通して、日常的な運動習慣を身に付けさせ、体力の向上を図る。

セ　校内環境の整備

（ア）施設の安全管理を徹底する。

（イ）計画的で効果的なＩＣＴ機器の環境整備を推進する。

（ウ）生徒が授業や進路関係においてネットワークと機器の効果的な活用を推進する。

（エ）各教科でＩＣＴ機器の活用を推進するとともに、生徒が授業や進路関係においてネットワークと機器の効果的な活用を推進する。

（オ）探究活動や各教科で個人端末を有効に活用する。

（カ）自習室の環境整備を引き続き実施し、活用を推進する。

ソ　服務事故の防止

（ア）挨拶とコミュニケーションを率先垂範し、明るい職場風土づくりを推進する。

（イ）年間を通した服務事故防止研修会を実施、個人情報の管理、服務管理、危機管理の徹底を図る。

（ウ）経営企画室は都民サービスの視点に立った窓口業務を推進する。

タ　経営企画室の学校経営への参画

（ア）経営企画室と教員組織が円滑に連携を図り、施設管理は予算執行管理を適正に行う。

（イ）施設・設備の点検と維持管理を強化し、安全管理に努める。

（２）重点目標と方策

ア　系統的な探究活動の実施

（ア）中学校における地域探究・マイプロジェクトと、高等学校における「探究と創造（ＱＣ）」を実施する。

（イ）大泉イノベーションプログラムを全教員で協力して実践・改善する。

（ウ）ＯＩＺＵＭＩ　ＡＷＡＲＤの開催に向けて、全ての教職員の共通理解と協力体制を整える。

（エ）附属中学校

・　自ら課題を設定するための原動力となる好奇心を高めるために、様々な活動を行なうことで、探究活動の基礎的なプロセス、必要な知識やノウハウを体系的に習得させる。データサイエンスや統計処理を学ぶことで探究活動の更なる発展を図る。

・　各教科における授業・行事等を通して、主体的な学びを行わせる場面を設定する。

（オ）高等学校

・　高校１年生と高校２年生での探究活動「探究と創造」（ＱＣ）」の円滑な実施と充実を図る。

・　「探究と創造（ＱＣ）」及び全教科で探究活動を推進し、学習指導要領と大学共通テストへの対応を推進する。

イ　系統的な進路指導の実施

（ア）キャリア教育から進路指導へと系統的な進学指導の実施を適切かつ確実に遂行することで第一希望の進路実現を支援する。

（イ）中高一貫教育校の生徒に、６年間を見通した組織的な進学指導の実施を適切かつ確実に遂行することで第一希望の進路実現を支援する。

ウ　学習指導・教科指導力の向上

（ア）アクティブ・ラーニング、探究型学習などの指導力向上に向けて検討し、６年間を見通した教科指導計画と内容について教科の全教員の共通理解を図る。

エ　教科横断的な学びの充実

（ア）校外の研修や指導教諭の授業を参観することで「チーム大泉」としての組織的な教科指導力の向上を図る。

（イ）教科の枠を超えて知識や考え方を結びつけることで、理解を深め、深い思考力・判断力・表現力を育む。

（ウ）学んでいる内容が社会や生活とつながっていることを実感させ、興味や意欲をもって主体的に学習に取り組ませる。

オ　国際理解教育の実施

（ア）大泉ソーシャルイノベーションプログラムを活用して日本のよさを理解する。

（イ）ＯＩＺＵＭＩ　ＡＷＡＲＤ等で、英語での発表する機会を充実する。

（ウ）地域の課題を発見し、解決策を提言すること、中小企業のイノベーションなどを理解すること、日本の伝統文化を理解することを通して、日本のよさを理解する。

（エ）海外からの来客を受け入れ、交流事業を充実させる。

（オ）附属中学校

・　英語４技能をバランスよく育成し、卒業までにＣＥＦＲ　Ｂ１（英語検定　２級、スコア１７８０）以上を目指す。

（カ）高等学校

・　英語４技能をバランスよく育成し、卒業までにＣＥＦＲ　Ｂ２（英語検定　準１級、スコア２５９６）以上を目指す。

カ　豊かな心と思いやりの心の育成

（ア）附属中学校

・　道徳や学校行事、部活動など教育活動全体を通じて、豊かな心と思いやりの心を育み、人間性を高める。

キ　ＩＣＴ機器の活用

（ア）環境整備とＩＣＴ機器を活用した授業、オンラインでの授業対応を推進する。

４　数値目標

（１）探究活動

ＯＩＺＵＭＩ　ＡＷＡＲＤ来校者数　２，０００名

（２）進路指導・キャリア教育

模擬分析会	２回／年（高１，２年）、３回／年（高３年）
生徒面談	２回／年
三者面談	１回／年
国公立大学現役合格	３５名
難関私立大現役合格	８０名
大学共通各科目平均点	８０％

（３）学習指導

生徒の授業満足度	８５％
講習満足度	８５％
夏季講習	７０講座（高１～３年）
夏季講習申込人数	１，０００名
冬季講習	３０講座（高１～３年）
冬季講習申込人数	３００名
教員相互授業見学	３回／年

（４）国際理解教育

英語資格検定	Ｂ１　１００名以上、Ｂ２１　１５０名以上

（５）特別活動・部活動

体育祭来場者数	１，０００名
文化祭来場者数	３，０００名
合唱コンクール参観者数	５００名
行事満足度	８０％
部活動入部率	９０％
部活動地域大会以上出場（中学）	４部
部活動　都ベスト６４以上（高校）	３部

（６）広報活動・入学選抜

学校説明会等来校者	３，３００組
塾・予備校説明会	１２回
ホームページ更新	１００回
入選倍率	４．５０倍